

製品名: MTA1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM82255**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2b
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	80.8kDa

抗原情報

遺伝子名	MTA1
別名	MTA1
遺伝子 ID	9112.0
SwissProt ID	Q13330
免疫原	大腸菌で発現したヒト MTA1 (AA: 541-715) の精製された組み換え断片。

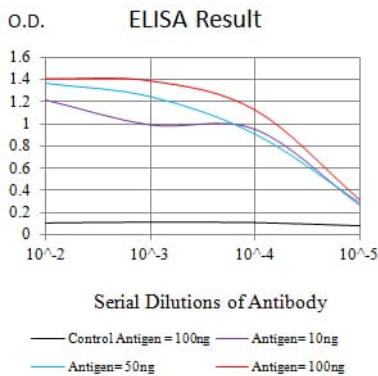
背景

この遺伝子は、転移細胞、特に乳腺癌細胞株で発現する遺伝子のスクリーニングで同定されたタンパク質をコードしています。この遺伝子の発現は、少なくとも 2 種類の癌の転移能と相関していますが、多くの正常組織でも発現しています。転移におけるこの遺伝

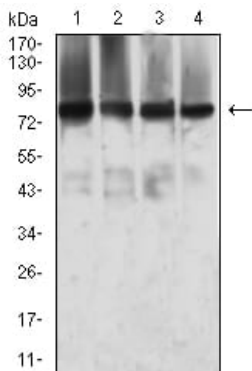
子の役割は不明です。当初はヌクレオソームリモデリング脱アセチル化酵素複合体 NuRD の 70kD 成分であると考えられていましたが、この成分は異なるが非常に類似したタンパク質である可能性が高いです。しかし、これら 2つのタンパク質は非常に密接に関連しているため、同じ種類のドメインを共有しています。これらのドメインには、2つの DNA 結合ドメイン、二量体化ドメイン、および DNA をメチル化するタンパク質によく見られるドメインが含まれます。この遺伝子産物のプロファイルと活性は、この遺伝子が転写の制御に関与し、クロマチンリモデリングによって転写が制御されている可能性を示唆しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2つの転写産物バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2011年2月]

研究分野

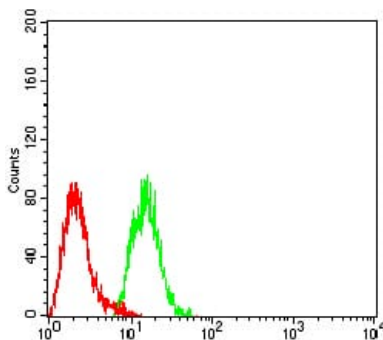
画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



SW480 (1)、T47D (2)、MCF-7 (3)、および COS7 (4) 細胞溶解物に対する MTA1 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



MTA1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。